

すぐれた自然の利用と保護のバランスを考える

担当教員名 高田 雅之

1 コースの概要

日 程	2014年9月10日～14日
場 所	北海道 大雪山国立公園、コムケ湖など
参加人数	23人

2 コースの目的

大雪山国立公園の優れた自然にふれるとともに、登山や観光に伴う植生破壊や登山道浸食の現場を訪ねます。またヒグマとの軋轢と共生方法、山岳エコツアーのあり方について学習します。オホーツク海に面した紋別市のコムケ湖では地域資源を見つめ直してラムサール条約登録を目指す地域の取り組みを学びます。これらを通してすぐれた自然の利用と保護のバランスについて考えます。

3 事前学習

以下のテーマ別に4つのグループに分かれ、現状と課題を調べ、発表し合うことで問題意識の共有を行いました。

- 1) 大雪山における登山道浸食と湿原踏みつけ問題
- 2) 大雪山におけるヒグマと人の軋轢と共生
- 3) 大雪山・コムケ湖の魅力とエコツアーの可能性
- 4) コムケ湖の魅力と保護に向けた地域の取り組み

4 行程

1日目

羽田空港に集合し旭川へ、バスで大雪山国立公園での滞在地層雲峡に到着し、雄大な滝を散策しました。夜は環境省自然保護管と湿原の植生復元を行う専門家から、国立公園の概要と課題、植生復元の方法と効果について学びました。

2日目

植生復元と登山道補修のための資材を皆で分担して担ぎ、愛山溪温泉から沼ノ平湿原に向けて登山を行いました。天候に恵まれず、2/3登ったところで断念。資材はそこまでしっかり運びました。午後は天候が回復し、雲井ヶ原湿原を散策し、美しい紅葉に包まれた大雪山を堪能しました。夜は昨夜に引き続き環境

省と民間の方を講師に山岳エコツアーのあり方について学習しました。

3日目

高原温泉のヒグマ情報センターでヒグマと登山者との共存に向けた取り組みについて学んだのち、数年ぶりの美しさという紅葉の高原沼を廻りました。午後はオホーツクの町紋別市へ。夜はコムケの会の方から、コムケ湖のラムサール条約登録に向けた地域の取り組みと課題について学びました。

4日目

流氷科学センターと海中を眺めるオホーツクタワーでオホーツク海の自然について学んだ後、トッカリセンターでアザラシ達と触れ合いました。かつて漁業で使われた番屋で昼食の後、コムケ湖の湿原・塩湿地や海浜植生など日本屈指の渡り鳥飛来地の豊かな自然に触れました。夜はコムケの会の方々とコムケの自然をテーマに意見交換会を行いました。

5日目

自転車でサロマ湖ワッカ原生花園の雄大さを体感し、能取湖のサンゴ草の紅葉を見るなど網走国定公園の優れた自然に触れ、女満別空港から羽田空港へと帰途に着きました。

5 事後学習

事前学習で掲げた4つのテーマについて、現地で実際の自然に触れ、地域で活動する人々から直接話しを聞き、意見交換した結果をもとに、各グループの学習成果をまとめ、発表を行いました。また、各参加者がこの旅で発見したこと、感じたこと、今後の大学での学習に行かせることなどについてレポートにまとめ、提出してもらいました。



ヒグマ情報センターでヒグマ剥製を前にして



アザラシと触れ合う(紋別トッカリセンター)